

# ボールの特性レポート

## BALL REPORT



ボール名	ヴァルチャー	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.490	△RG	0.046	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

**テストボール：ヴァルチャー**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤

**比較対照ボール：パンサー**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  インチ

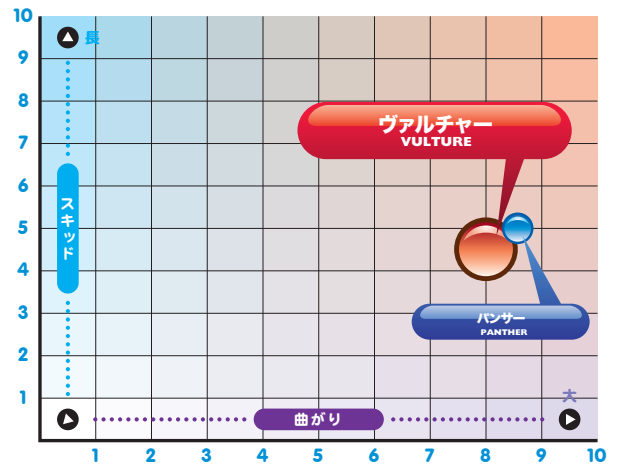
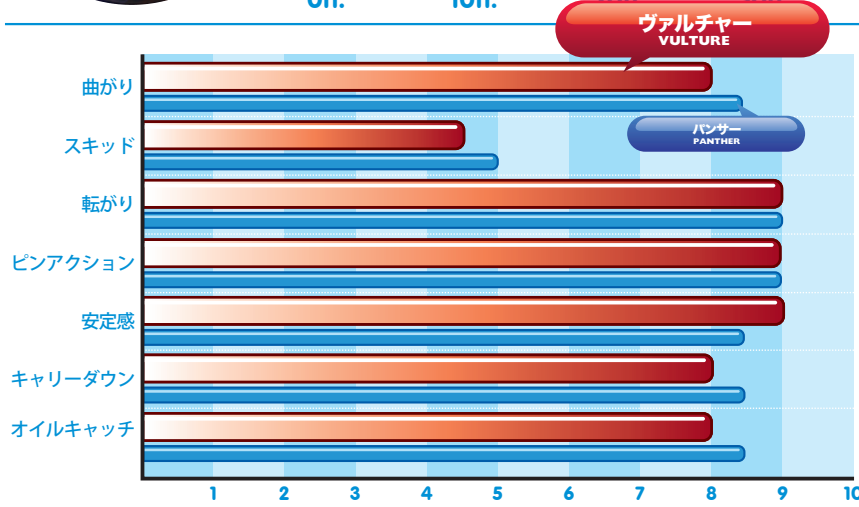
表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- パフ



### ボールの評価

先月満を持して発売された最上級のテクノロジーを搭載したPANTHERの市場評価は高く、Natural Enemiesブランドが完全復活することが出来ました。使用された多くの方がピンアクションに多大な恩恵を受けられると感じ、私自身もプロトタイプよりも更にピンアクションがバージョンアップされ発売されたことに驚きを隠せません。今回発売するNatural Enemies VultureはPANTHERと同様のCoverstock Technology "LCD"(Low Crosslink Density/低架橋密度)を採用してオイルキャッチとピンアクション双方を向上させる役割を担っています。

今回新しく採用されたCoverstockは"LCD-77(Low Crosslink Density/低架橋密度)"、Core Technologyの"MOAI"は小さなMB数値を持っており、ブレイクポイントでの安定感を保ち、中△RGが扱いやすい曲がりと確実なポケットHITを生み出すよう設計されています。実際にPANTHERと比較投球してみても曲がり始めのスムーズ感とオイルの捉え方はVULTUREの方が安定していると思います。

今回は#2000ポリッシュされていますが、PANTHERとの使い分けを望まれるボウラーは#2000~#3000Abralonで加工するのも良いでしょう。そうすることでよりオイルが増したコンディションでMOAI Coreの軌道はさらに安定感を増すイメージがあります。まずはBox Finishで投球してみて、ブレーキのかかり具合で表面の仕上げをチョイスしてください。入射角の強さを求める方はBox Finishで、Mid Laneからの安定感を強めたい方は#2000~#3000で調整して頂くのが良いでしょう。自分が最も安定して投球できる加工に仕上げられる幅もこのVULTUREには組み込んであります。Natural Enemies次の刺客はVULTUREです。安定した軌道と確実なポケットヒットが売りの性能ですので、是非お使いください。

### 特記事項

**Coverstock Technology "LCD"(Low Crosslink Density/低架橋密度)を採用して、走り過ぎないオイルキャッチの良いパフォーマンスが得られます。**